

令和2年 第43回 宮城眼科先進医療研究会

日時 令和2年12月7日(月) 19:00-20:00

場所 東北大学医学部 眼科学教室 (WEB開催)

プログラム

1. 代表世話人挨拶

2. 特別講演

座長：横倉 俊二 先生

演者：大分大学医学部

助教 中野 聡子 先生

「眼感染症多項目 PCR 検査キットの全国への普及」

中野 聡子 (なかの さとこ)

略歴

2002年 大分大学医学部卒業

2002年 大分大学医学部医員

2014年 大分大学医学部医学系研究科修了

2015年 大分大学医学部臨床特任助教

2017年 大分大学医学部助教

現在に至る

3. 閉会の辞

宮城眼科先進医療研究会

眼感染症多項目 PCR 検査キットの全国への普及

大分大学医学部
助教 中野 聡子 先生

抄録

病因検査は他の疾患を否定し、根拠を持って治療を進めるための基本であり、量的情報は病勢判断にも役立つ。また、多項目同時検査は、生物学的製剤などのリスク管理としての感染症除外診断にも有用である。今まで、眼感染症に対応する検査キットが国内外に無く、研究用 PCR 検査ができない施設では、主治医の主観による臨床診断や治療的診断に頼らざるを得ないこともあった。

「Direct Strip PCR」は、感染性ぶどう膜炎主要病原体 9 項目の核酸を同時検出するリアルタイム PCR キットである。凍結乾燥・固相化技術に直接 PCR 技術を組み合わせることで、微量眼内液 (20 μ L) に対応し採取による侵襲が少ない。簡便 (核酸抽出・試薬計量不要)、迅速 (前処理なし、用手操作 1 分、PCR32 分) で、外来、術中迅速診断にも適する。先進医療「ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断 (PCR 法)」として、大学病院以外を含む全国 31 都道府県 (準備中含む) に普及し、多くは検査部に導入されている。COVID19 で汎用型リアルタイム PCR 機器が全国の検査部に普及したこと、医療法改正により臨床使用する遺伝子検査には精度管理等が必要とされるようになったこと、キット化で研究用 PCR 検査より結果が安定すること、安価であることが普及に影響したと考えられる。

先進医療 29 技術中で施行件数、施設数ともに 5 位と上位であるが、企業の収益化には未だ件数が少なく、強いニーズがあるものの保険適応に至っていないため、患者費用負担が解消されていない。東北地方では現在本検査は行われていないが、導入が進めば、保険診療化の一助となると期待される。

本講演では、キットの基礎情報、使用方法について紹介したい。